

平成25年度 木更津市生涯学習推進協議会 第1回会議 議事録

日 時：平成25年7月18日（木）

午後1時30分～3時00分

会 場：木更津市役所6階会議室

議 題 協議事項・報告事項

木更津市の生涯学習事業について

- ・木更津市生涯学習重点施策について
- ・生涯学習市民公開講座
- ・生涯学習フェスティバル
- ・生涯学習バス「まなび」の運行状況
- ・その他

出席者 工藤 敏夫、石井 章、安藤 順子、平野 節子、池田 利一、佐久間 剛、  
宮崎 清、桂 啓之

事務局 初谷教育長、能城教育部長、本多教育部次長、石井生涯学習課長、  
佐々木副主幹、露寄主査、堀田主事

事 務 局：定刻となりましたが、開催前に青少年相談員連絡協議会選出委員について、4月に委嘱替えがあり、委員の交代がありましたのでご報告します。辻本委員が3月末をもって退任され、新たに磯部 光治委員にお願いすることになりました。

事 務 局：それでは、ただいまより木更津市生涯学習推進協議会第1回会議を開催いたします。本会議は、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」により公開されております。本日の傍聴人はおりません。また本日の会議は、委員14名中8名の出席、欠席は6名です。したがって、生涯学習推進協議会設置要項第6条第2項の規程により委員の2分の1以上の出席がございますので本会議は成立しております。

以上報告いたします。

それでは、はじめに工藤会長よりご挨拶を申し上げます。

工藤会長：皆さんこんにちは。木更津高専校長の工藤でございます。今年度の第1回ということですが、どうぞよろしく願いいたします。

先日、君津地方社会教育推進大会の中で、習志野市秋津コミュニティの代表 岸 裕司先生の特別講演がありました。秋津小学校を拠点とした元気なコミュニティをつくる、という大変素晴らしい実践を聴きました。翻って木更津市も学校支援ボランティアという独自の活動を積み重ねておりますので、学校を拠点に、地域あるいは保護者の方による学校を支援するボランティア活動を核にして、社会教育の輪をさらに広げ、元気なコミュニティをつくるということに、皆さんで努力していくと大変いいな、という感想を持ちました。

そういった、社会教育、生涯学習の推進の一翼を担って協議会で検討していきたいと思いをますのでどうぞよろしくをお願いします。

事務局：ありがとうございました。続きまして、木更津市生涯学習推進本部副本部長の初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長：皆さん、こんにちは。磯部委員を新たに加えて、皆様方には引き続き生涯学習推進協議会委員としてご指導を賜りたいと思います。

先立って行われた君津地方社会教育推進大会では、多くの木更津市関係の個人、そして団体の表彰がございました。そして、今、お話のありました秋津小学校地域の取り組みとともに、木更津市の学校支援ボランティア推進会活動が昨年、文部科学大臣から表彰を受けました。一方、工藤会長の木更津高専の学生も、清見台公民館での通学合宿に大勢ボランティアとして参加してくださいました。若い人から年配の方まで幅広い市民活動に支えられているということを感じております。

また、社会教育推進大会で配られた資料を見ますと、四市の職員体制、社会教育主事有資格者、施設の状況、そして活動状況など生涯学習、社会教育についてのデータが一覧されておりましたが、木更津市はその中でも確固たる地位を築いているなという印象は受けました。図書館については、後塵を拝している部分がありますが、職員体制、施設数、内容については、充実していると感じております。とはいえ、実際に社会教育あるいは生涯学習を推進していくうえで、これから報告の中で今年度の取り組み等述べてさせていただきますが、委員の皆様には厳しく、幅広い高い立場からご指導、ご意見を賜れば大変ありがたいと考えております。どうぞよろしくをお願いします。

事務局：それでは、会議に入りますが、生涯学習推進協議会設置要綱第6条により会長に本会議の議長として進行をお願いいたします。工藤会長よろしくをお願いいたします。

工藤会長：それでは、ご指名により進めさせていただきます。

本日の議題は、木更津市生涯学習事業の平成24年度報告、そして平成25年度事業計画の協議であります。これから、事務局より説明をいただいた後に、協議を行ってまいりたいと思います。それでは、平成25年度生涯学習課重点目標を説明していただき、各種事業の報告、計画について説明をお願いします。

< 事務局説明 >

工藤会長：ありがとうございました。それでは、委員の皆様からご質問、ご意見がありましたら、どうぞお願いします。

石井委員：生涯学習フェスティバルの「わくわくにちようびあそびたんけんたい」ですが、大人が用意する遊びから、子どもが子どもの遊びを作るというのは、非常に良いと思います。子どもたちの様子を見ていますと、日常的に面白かったらやる、面白くないものはやらない、この経験がすごく積み重なってきているんですね。自分が考えて遊ぶ楽しさを経験していない。それをぜひ経験させたいですし、それを子どもたちがやると、その中でコミュニケーションがとれて、良い経験が出来る機会になるのかなと思います。準備は大変でしょうが、大いに良いと思います。

生涯学習課長：今まで、子どもはお客様でしたが、そうではなく、子どもたちがその遊び場を作る主体となるよう進めていきたいと思います。その間の準備は大変ですが、作っていくまでに子どもたちがみんなで意見交換をしたり、自分の意見をどうしたらみんなに分かってもらえるか等を考えたりしながら、作っていくまでのプロセスの中で学んでいけるのではないかと考えております。

桂委員：少年自然の家キャンプ場で、例年体験学習を行っていますが、いつも募集に対して集まりが少ないという印象です。募集というより各学校から割り当てて、何名かずつ推薦で出すなど、集め方をもう少し考える必要があるのではないのでしょうか。

参加させると子どもは、結構、面白がるのではないかと。きっかけがなかなかないので、きっかけを作ってあげるという意味では、体験学習の規模拡大の策にはなるのではと思いましたが。

生涯学習フェスティバルの「わくわくにちようびあそびたんけんたい」についても話したいのですが、畑沢地区でハートフル王国というのをやっておりまして、全部子どもたちにやらせている。そして毎年、子ども達がどんどん増えていき、もうOBは社会人に近づいています。協力してくれている。ぜひ、子どもたちに企画させてやりたい。

生涯学習課長：いきいきサマーキャンプですが、今年度は約20名の参加希望が、昨年度は24名参加実績がありました。30名を目標に進めています。やはり、学校教育とは違っていて、社会教育は自発的に、「参加したい」という子どもの気持ちをととても大事にしながらスタートしますので、ぜひ参加したいと思ってもらえるような広報や呼びかけ等を工夫しながら、実施していきたいと思えます。

工藤会長：生涯学習バス「まなび」ですが、審査基準が詳細に決められてます。希望も多いかと思いますが。

宮崎委員：青少年補導員の研修で使ったことがあると聞いたことはあります。

生涯学習課長：基本的には、生涯学習課や公民館、博物館、市の主催する事業で使っていくというこ

とになっておりますが、空いている日には、公民館で活動しているサークルや関係団体の方々に利用していただいております。

安藤委員：先日、公民館の家庭教育学級で「まなび」を利用させていただきましたが、静かにしてほしいとか飲食禁止という注意を受けました。審査基準を見ますと使用者は常に「品位の保持に努める」とありますからそれでかなとも思います。飲物だめなんですよ。

生涯学習課長：「動く教室」と言われておりますので、飲食が禁止されております。観光バスと違うと考えていただければと思います。熱中症等もありますので、健康に気遣って水を飲むくらいは、とは思っています。

桂委員：生涯学習関連の事業について、広報などでPRしてるとは思いますが、市民からの意見はありますか。

事務局：事業ごとに終了後、アンケートを採るなどして意見を求めています。

桂委員：広報を見て、質問や意見を直接、生涯学習課にする方は少ないのですか。

事務局：直接、こういう事業をしてほしいといった意見はありません。どちらかというとな身近な公民館などには、事業を含めて講座をやってほしいといった声はあると思います。

桂委員：他市に聞いた話ですと、どんどん何かやってくれ、という市民が結構多いようです。市の活性化のために、予算の関係もあると思いますが、市民から意見があるようでしたら、すくい上げてほしい。

工藤会長：公民館の活動に高専の学生が参加して、助かったという報告をいただいておりますが、うちの学生も放っておくとあまり外に出ようとしません。どうしても最近の若い学生の傾向で閉じこもりがちになったり、ひとりで遊んでいるようなこともあります。

なるべく社会との接点を持つとか、各年齢層の人とふれ合うということ、学校としても奨励したいという意味でも、授業以外の課外活動としてボランティア活動を単位として認定するという仕組みをとっております。

外で活動しなさいというわけですが、学生もそういった活動の必要性を感じながら参加していると思います。引き続き学校としては、地域の方々と連携しながら進めていきたいと思っております。

もうひとつ、5年生には卒業研究というのがあります。1年かかって自由にテーマを見つけて研究をし、それを論文にまとめて成果を出す。卒業論文ですね。それは、教員の指導を受けながら行う授業の中の活動ですが、卒業研究という授業の一環で地域の方と連携をする、

何かそういう活動ができないかと思うのです。地域の方といろいろな活動をするとか、あるいは、地元の企業と共同研究をするとかそれ自体を卒業研究のテーマにできないか、課外活動と成果を求める授業の中の活動、違いはあるんですが、結果的には同じようなことになると思います。

卒業研究の方は、教員も関わってきますので、なかなかすぐにはいきませんが、テーマを見つけれればやれるのかなと思います。

さらに、本科の5年生のうえに専攻科の2年間がありますので、専攻科の学生も同じようにすることになると、より高度ないろいろな活動ができることになるだろう、そのように考えております。

石井委員：私、中学校の教員ですが、子どもを見ていて思うのですが、大人との関わりが非常に少ないですね。友達の家遊びに行き寝をされるというような機会もないのです。友達の家遊びに行くときは、親がいないとき。自由に出入りできる所なんかには泊って、遊んで、さっと帰っていくというような、そういう子どもも結構いるんです。昔のように「おじゃまします」、「いただきます」、「ありがとうございました」みたいなよそ行きの言葉を使うことも、教えてもらう機会も、少ないと思います。そういう意味で、お話のように外に出て学ぶ機会というのは、必要だとつくづく思っております。

工藤会長：まずは、大人が積極的にいろいろな機会を作ってあげて、やらせないといけませんよね。

石井委員：関わり方を知らないですね。大人との関わり方。だから、道で注意されるとどうしていいかわからない子どももいる。そういうことも教えてあげないといけないのですが、もっともっと大人と関わらせたいなとは思っています。

工藤会長：今の意見についていかがでしょうか。佐久間委員、体育、スポーツの活動でも子どもたちにいろいろな心身を鍛えようということやられてますよね。

佐久間委員：そうですね、体育・スポーツ関係で言いますとね、スポーツというのは、大人が教えて子どもがそれについて学ぶので、接点が非常に多いです。大人の年齢層も広いということによって非常に有効かと思えます。

池田委員：最近、子どもたちが「おはよう」「こんにちは」と挨拶が非常に良くなってきたということからみても、子どもたちも大人が示したのに対しての努力が非常にあると思うのです。ですから、そういう場面を大事に作ってあげたいと思います。

工藤会長：私の学校でも、学生と廊下で会うと「こんにちは」と必ず言うようにしています。も

ちろん学校外の方が見えたときもそのようにしています。

地域をちょっと歩いていますと、子どもから「こんにちは」と、声をかけられることもよくあるんです。この地域は見知らぬ人にも挨拶するように躰けているのかな、と考えてます。

池田委員：学校によっては、そういうことに重点を置いてだいぶやっているようですね。私は、第一小学校の評議員をやっておりますが、何か買い物に行くと、必ず、子どもたちがあっちからも、こっちからも、遠いところからも声をかけてきます。そういう場合に受け答えをしてあげる。そのような機会を持ってあげると子どもたちも生き生きとしていくんじゃないかと思えます。

工藤会長：ありがとうございました。一括して24年度の事業報告と今年度の計画と審議をしていただきましたが、今年度の事業計画についても了解をいたしましたので充実した社会教育を進めていただくということでよろしいでしょうか。

それでは、参考で配られております中央教育審議会の「議論の整理」これについて説明をお願いできますか。

< 事務局説明 >

それでは、みなさんにご協力いただきまして今年度第1回目の審議を進めてまいりました。皆様には健康に気をつけてそれぞれのところでまた活躍をいただきたいと思います。私のほうからはこれで進行を終わらせていただきます。ありがとうございました。

事務局：それでは、平成25年度木更津市生涯学習推進協議会第1回の会議を終了します。どうもありがとうございました。